

道徳・特別活動委員会

1 研究テーマ

互いを認め合い、こころ豊かな人間関係を深める学級活動のあり方
～対人関係ゲームを取り入れた学級集団づくりを通して～

2 研究内容

研究授業実施 平成 21 年 11 月 18 日（水）高山村立高山小学校 2 年 1 組

授業者 長田みゆき教諭 「友だちといっしょに」・・・『新聞紙タワー』

- ・ Q-U の実施・・・7 月に実施。私たち教師が、気づかなかった子どもの内面や可能性について知ることができた。また、視点を変えて子どもを見たり、話を聞いたりすることができた。実際の授業を通して、指導者の田野口先生から Q-U の分析をもとにグループ分けなどにも配慮した方がよいというご指摘を受けることができた。
- ・ 様々な対人関係ゲームの実施・・・「フルーツバスケット」や「人間知恵の輪」などを行うことで、みんなでやって楽しいことも、きちんとやらない仲間がいるとつまらなく感じてしまうことや、難しいことでも互いに協力しあうことで、達成できる喜びなどを感じることができ、「またやりたい」「もっとやりたい」という気持ちの高まりが見られている。
- ・ 題材選定のあり方・・・授業学級である高山小学校の 2 年 1 組では、道徳の学習や特別活動における対人関係づくりの学習を『心のおべんきょう』と名付けて実践を積み重ねてきている。子どもたちの多くが、この『心のおべんきょう』の時間を楽しみにしている。また、毎朝行われている絵本の読み聞かせも集中して聴く力をもった子どもたちである。しかし、その一方で、認められたい、褒められたいという気持ちが強すぎるためか、自分のやりたい時にやりたいことをやってしまったり、授業中でも自分の世界に入りこんでしまったりする子どももいる。そこで、活動していく中で相手の気持ちを聴いたり、受け止めたり、自分の思いを仲間に伝えたりしながら、意見をまとめていくなどの「折り合いをつける」ことを学ばせたいという願いから『新聞紙タワー』に挑戦してみることにした。
昨年の道徳の時と同様に、推進委員の学級においても小学校低学年から高学年、そして、中学生に至るまで『新聞紙タワー』の実践を試みることもできた。

3 研究の成果

(1) 指導の実際

- ・ 事前に他の推進委員の『新聞紙タワー』の実践から、グループの人数が話題となった。活動に上手く関わることができず、見ているだけの子どもが出ないようにグループを 3 人の構成とするようにした。（当日、欠席した子どもがいたために、4 人のグループが 2 つできてしまったが・・・）新聞紙タワーは、一人では立てることができないので、どうしても仲間の協力が必要となる。自分のやり方で進めたいと強く願っていた A 生も、3 人で協力しあって記録を伸ばしているグループの様子を見る中で、意識が変わっていった姿を見ることができた。グループの関わりを考える上でも、3 人